

かんげんこん!

No.120

News

June 2025

関西原子力懇談会第15回総会を開催

当会では、5月23日(金)、大阪科学技術センターにて第15回総会を開催しました。

会長の三島嘉一郎からは、近年、我が国における原子力発電をめぐる動きが活発化しており、昨年11月に、国内初の使用済燃料中間貯蔵施設であるリサイクル燃料貯蔵株式会社の「リサイクル燃料備蓄センター」が事業を開始したことに続いて11月に女川2号機、12月には島根2号機が再稼働し、全国で再稼働済みプラントは計14基に達したことに触れました。さらに今年2月、第7次エネルギー基本計画が閣議決定され、「原子力の最大限活用」が国の方針として打ち出されたことを受け、次世代革新炉の開発・設置、新規建設、資金調達や人材育成といった支援環境の整備も進められていることに言及しました。また、原子力政策が前進する一方で、円滑な推進には原子力に対する国民の皆様のご理解、原子力分野での人材育成と人材確保がますます重要になってくることを強調。

「関西原子力懇談会では、今年度も若年層を対象とした啓発活動を強化し、医療や産業分野における放射線利用の紹介も含め、幅広く原子力の魅力を伝えてまいります。」と挨拶しました。

また、常務理事・事務局長 大神隆裕から、「原子力政策の進展にあたっては、電力消費地での原子力・放射線理解の向上に加えて、安全・安定運転に資する電力事業者の技術力の一層の向上が礎になることから、産官学を取り持つ、技術事業の活性化にも努めて参ります。更に、2026年度に関原懇70周年を迎えるにあたっては、現在実施している次世代層向けの試行・挑戦を踏まえ、次のステージに向けた新たな取組み項目の確立を図ります。」と今年度の事業計画等について説明致しました。

みなさまには、引き続き、当会への変わらぬご支援ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



記念講演会



総会に引き続き、「第7次エネルギー基本計画と今後のエネルギー政策展望」をテーマに、秋元 圭吾先生（地球環境産業技術研究機構 システム研究グループ グループリーダー・主席研究員）による講演会を実施致しました。

講演会では、第7次エネルギー基本計画についてエネルギーミックスの観点から解説頂きました。再生可能エネルギーと原子力の対立を超え、脱炭素とエネルギー安全保障の両立を目指す政策転換が示された一方で、現実的な対応としてLNGも活用する二面戦略を取り、製造業の競争力維持と気候変動対策の両立を図っている本計画の意図を読み解くことは重要と最後に締めくくられました。

2025年2月5日(水)「山口真由さんと考えるくらしとエネルギー」をザ・リッツ・カールトン大阪にて開催され、約330名が参加しました。

今回のセミナーでは、テレビ等でも幅広く活躍する山口 真由さんをお招きし、前半はご自身の経験をもとにキャリア観を語るスペシャルトークを、後半では秋元 圭吾先生(地球環境産業技術研究機構システム研究グループ グループリーダー・主席研究員)と、私たちのくらしとエネルギー問題の関わりについて対談頂きました。

モデレーターは、エネルギー広報企画舎代表としてエネルギー関係のセミナーなど豊富な実績を持つ高木 利恵子さんが務め、知見と親しみやすさの両立した進行で、会場の雰囲気为一体感あるものにして下さいました。

第1部：山口真由さんスペシャルトーク

ー仕事、留学、現在の生活、山口さん流キャリア論ー

第1部では、東京大学法学部を卒業、財務省、弁護士活動等、輝かしい経歴の一方、挫折を経験した出来事などを山口さんに振り返りながらお話頂きました。最後には、「自分が携わる仕事に合っている、優れているとは思わない方がよい。また、合っていない人は、他の方と比べ劣っていると考えない方がよく、その経験自体にいいヒントがある。仕事には色々なポジションがあるので、自分に合ったものを選択していき、自分の軸が出来上がることで自分が何者かに気づけば、他人にもう少し優しくできたりするのではないか。」と参加者に問いかけ、「人生における選択」や「挑戦への向き合い方」について、率直な言葉で語ってくださった講演は、会場の多くの参加者に深い共感と刺激を与えました。



第1部 スペシャルトークの様子

第2部：対談セッション

ー幸せな未来のために考えるエネルギー問題ー

続いて行われた第2部では、さらに秋元先生をお迎えし、エネルギー問題という複雑なテーマを、生活に密着した市民の視点からどのように捉えたらよいのかを対談頂きました。秋元先生は、国の政策に関わる立場から、現在のエネルギー供給の課題や脱炭素社会に向けた技術開発の動向について、わかりやすく解説して下さいました。また、CO₂削減目標の現状や、再生可能エネルギーの可能性、原子力や水素といった次世代技術の必要性など、多岐に渡るトピックについてもご説明頂きました。山口さんは「くらしの中で私たちはエネルギーに支えられているが、エネルギー問題は難しく、考えることを諦めてしまいがち。先生の話をお伺いし、正しい知識を持って、正しいと思える一歩を生活の中で踏み出していきたい。」と締めくくられ、秋元先生と山口さんの間で交わされた「専門性」と「日常感覚」のバランスの取れた対話は、参加者にとって非常に示唆に富んだものとなりました。



第2部 対談セッションの様子

参加者の声と今後に向けて

セミナー終了後に実施されたアンケートでは「娘が学校で電力の授業を受けており、原子力と再生可能エネルギーとの差を家族でも話すことができました」など、原子力やエネルギー問題について改めて考える機会となった意見が寄せられました。

今回のセミナーは、エネルギーという大きな社会課題を、専門家と生活者の視点を交えながら共に考える貴重な機会となりました。技術や制度の進化はもちろん大切ですが、それを支えるのは「どんな社会を目指すか」といった価値観の共有です。

当会では、今後もこうした場を継続的に企画し、多様な立場からの意見交換を通じて、より良い未来に向けた共創を進めてまいります。

当会では、近畿2府5県（福井県含む）における中学校・高等学校・高等専門学校を対象に、放射線やエネルギーに関する課題研究活動を支援する事業を今年度より実施いたします。

今年度は、以下の4校の学校に支援が決定いたしました。今後、11月16日(日)に開催される発表会に向けて、活動を進めてまいります。

【活動スケジュール（予定）】

- 7月～12月： 研究活動実施
- 11月16日(日)：成果発表会（ハイスクールラジエーションクラス）
- 12月末： 活動報告書・経費報告提出

学校名	テーマ
和歌山信愛中学校・高等学校	放射線計測及びゲーミフィケーションによる放射線教育
KIU アカデミー	安全、簡単、安価なクルックス管の実験
大阪府立高津高等学校	放射線種の識別が可能な、安価な検出器の作成
福井南高等学校	高校生の原子力発電に関する意識の可視化と訴求

みんなのくらしと放射線展 ハイスクールラジエーションクラス

放射線について生徒自らが調べ、学び、考えたことを学校対抗形式で発表する「ハイスクールラジエーションクラス」を開催致します。

- 開催日：2025年11月16日(日)
13:30～18:00
- 開催場所：大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス
C13棟 講堂(オンライン参加も可能)
- 対象者：高校生、高等専門学校の1～3年生
(中学生も参加可能)

実施詳細は、みんなのくらしと放射線展ホームページ(<https://housyasen-fukyu.com/event/>)をご確認下さい。



「みんなのくらしと放射線展」ホームページ▶



昨年度の発表会の様子

学術振興奨学金の実施

当会では、2009年度より、関西および福井地域における原子力や放射線関連の研究活動の活性化を目的として、大学および高等専門学校の研究者助成のために奨学金制度を設けています。

厳正な審査の結果、2025年度は新規で2件を採択しました。

(順不同・敬称略)

氏名	所属	研究件名
沈 秀中	京都大学 複合原子力科学研究所	事故耐性燃料集合体内気液二相流の流動特性と相間輸送機構解明に関する研究
志水 陽一	京都大学 医学部附属病院 放射線部	小動物～ヒト生体内での細胞追跡を可能とする核医学診断剤の開発

「日本が資源を 確保し続けるためには」

立命館大学 食マネジメント学部 准教授 **光齋 翔貴**



資源の安定供給性というテーマに初めて関わったのは、私が京都大学複合原子力科学研究所の宇根崎教授の研究室にて大学院生として研究を開始した時に遡ります。当時は漠然とエネルギー安全保障という言葉を知っていた程度でした。どのような研究をすれば少しでも日本の資源供給の安定性に寄与できるか、今でも頭を悩ましながらエネルギーからさらに拡張し金属材料、食の3つの資源を対象に研究を続けています。

資源の安定供給性を研究しなければならない一番の理由は、エネルギーを例にとりますと、国家の基盤をなすのは何よりもまず「安定したエネルギーの確保」であるからです。エネルギーはすべての経済活動の根幹であり、それが不安定になれば、どれほど環境にやさしい技術や社会的に支持される方針があっても、経済活動は直ちに停止します。今でこそエネルギー

に関する諸問題が議論されていますが、その始まりはエネルギー安全保障です。1912年に英国のチャーチルが海軍燃料を石炭から石油に切り替えた際に生まれました。彼の言葉はエネルギーの多様性こそが安全保障の根幹であることを今に伝えていきます。

現在でも、地球温暖化への対応、原子力の社会的受容性、再生可能エネルギーの変動性など多様な課題が議論されていますが、これらはすべて「安定的にエネルギーが使える」という前提があるからこそ語られるものです。だからこそ、時代のトレンドに流されず、原子力も含め多様なエネルギー源をバランスよく確保するという視点を常に持ち続けることが不可欠だと考えています。材料や食も言わずもがなでしょう。日本の国としての持続可能性に向けて、このような研究分野のさらなる発展を目指しています。

原子力産業セミナー 2027

— エネルギー、放射線、核融合の最前線で未来を拓く —



INFO

持続可能な社会を支えるエネルギーや放射線、核融合の分野で活躍する企業が一堂に会する「原子力産業セミナー 2027」を、東京・大阪に加え、今年は福岡を含めた3会場で開催します。

本セミナーは、2027年卒業予定の学生をはじめ、第二新卒・キャリア層など幅広い参加者を対象に、原子力産業における最新の取り組みやキャリアの魅力を直接知ることができる貴重な機会です。業界の最前線に立つ企業や団体との出会いを通じて、自分の将来の可能性を広げてみませんか。



2027卒ほか、第二新卒・キャリアも対象!

エネルギー、放射線、核融合 原子力産業企業が幅広く集結!

原子力産業セミナー2027

東京 9/20 大阪 9/27 福岡 10/18

詳細はウェブサイトをご覧ください

主催：関西原子力懇談会、立命館大学、関西電力株式会社、東電株式会社、原子力発電所協会、原子力産業協会、原子力発電所協会、原子力産業協会、原子力発電所協会、原子力産業協会

協賛：関西電力株式会社、東電株式会社、原子力発電所協会、原子力産業協会、原子力発電所協会、原子力産業協会

お問い合わせ先：〒550-0004 大阪市西区靱本町1丁目8番4号 大阪科学技術センター5F TEL: 06-6441-3682

ウェブサイト: <https://www.kangenkon.org/>